

十冊を「唐丹の歴史を語る会」分として譲られております。

武田功先生が「南部三閉伊一揆を語る会」の講演会資料として一五〇冊発行した「三閉伊一揆頭取畠山多助の生涯」の残部十五冊も譲り受けています。

危機一髪のタイミングで手に入れることができました。

「三閉伊一揆手引草」は題名のとおり、南部三閉伊一揆を知るすばらしい教材であり、「三閉伊一揆頭取畠山多助の生涯」も又、武田功先生の長年の研究で蓄積された研究を「読む年表」形式で解説されており非常に判り易い資料になっています。

六月二八日に盛岡の事務局を訪問し、唐丹の歴史を語る会の希望者に配布したものだど残部全てを譲って頂きました。
情報が伝われば、欲しい人が沢山出てくるだろうと思いますが、今のところこ

れで売り切れとなります。

七月十日の「唐丹の歴史を語る会」総会の日に希望者に譲りました。

総会出席者が少なかった為と思われませんが残部が少しあります。

希望者はお連絡下さい。盛岩寺ホームページに書き込みするか、0193-5512133にFAXでも結構ですのでご連絡下さい。

0192-4512050事務代行サービスキムラにFAXでも結構です。

九月中旬過ぎに残部があった場合は、近隣の希望者に譲ることになりますので無くなります。

平成の一揆起るか？

お話を聞いて、弘化四年の一揆から来年が一六〇年に当たります。

記念の年に大々的に三閉伊一揆ツアーそして集会をしようという企画が進もうとしています。

又、そのための下見に今

年唐丹・気仙を訪問したい希望もあるようです。

嘉永一揆の主舞台の一つである唐丹にも訪れたいとの希望です。

一揆が越訴して来た篠倉峠、初日野宿したと思われる本郷地区、翌日から宿した唐丹各地をめぐると思

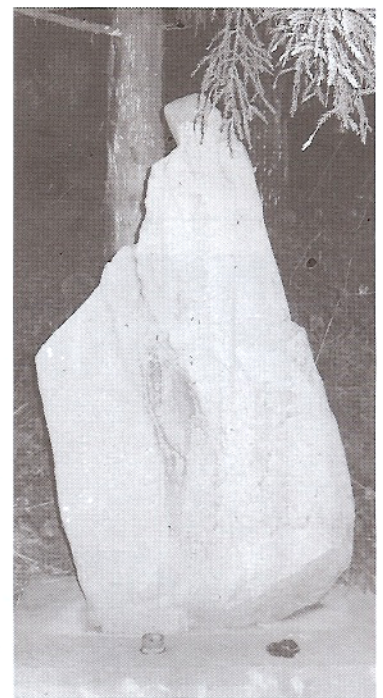
います。
一五三年前の一八五三年（嘉永六年）のようにお迎えして交流会を持たれたら良いと思います。

一揆前後の人の動き

話は少し変わって、嘉永六年の一揆の後、唐丹や近辺の村々に移り住んだ人達も居るようです。

羅賀村出身の人達が一揆後「尾崎白浜」に移住して「蘭賀」という苗字を名乗っていると聞いています。釜石の電話番号簿には、蘭賀姓の九人の方の名前が見えます。

唐丹にも過去に蘭賀一族が居りました（蘭賀宮松さ



平田の三浦命助の碑

ん一家六名、明治二九年の津波で死亡）昭和八年の津波の為絶家となった蘭賀家もあり、一族に極めて近い親戚もいます。

又、三浦命助の姉が唐丹に嫁入りしたと聞いています。

こちらは確認出来ていませんがその外にも関係者がいるのではないかと思います。

一揆前後唐丹に移住した人達が他にもいるのではないかと考えられます。

どなたか御存知の方は、是非情報提供をお願い致します。

色々な資料から勉強させて頂いているお返しに唐丹からも全国に情報が発信出



来ればと思います。
情報収集が出来た場合には、いつか調査結果を報告したいと思えます。

「三閉伊一揆手引草」
「三閉伊一揆手引草」感想集
「三閉伊一揆頭取畠山多助の生涯」